

検査技術研究所 創立60周年記念特別座談会 最前線で活躍する中堅社員が参集 超音波探触子専門メーカーの矜持を語る



座談会の様子

超音波探触子の専門メーカーである検査技術研究所(川崎市川崎区・岡賢治社長)は今年の4月3日に創立60周年を迎えた。超音波探触子は、発電、石油・化学精製などの各種プラントをはじめ航空宇宙、鉄道・自動車産業、住宅・建築分野などあらゆる産業における超音波探傷検査(UT)に必須の製品であり、同社は高度な技術で超音波探触子を生み出すことで半世紀に渡り人々の安全・安心な生活に貢献してきた。本号では同社の60周年を記念して高度な技術・技能および知見の明るさにより、開発・設計・製造・営業・品質管理の現場で活躍しながら後進の指導にも奮闘する同社の中堅社員の協力を得て特別座談会を企画。最前線を引っ張る社員達が高品質な超音波探触子を生み出すための仕事への姿勢や矜持および同社の未来などについて語った。

出席者(順不同)

- 熊谷啓三氏(取締役工場長・製造部部长)
- 関口嘉之氏(技術部部长)
- 小林正広氏(品質管理部部长)
- 刈谷晃洋氏(技術部技術課課長)
- 平井伸一氏(製造部製造1課課長)
- 関根春樹氏(製造部製造2課課長)
- (聞き手 検査機器ニューズ編集部)

まずは自己紹介から行っていました。中学生らお願いします。熊谷 工場長と製造部 興味を持ち始めて、近所部長を兼務している熊谷の鉄工所を遊び場にして啓三です。幼い時は遊び いました。そうしたことで玩具を分解して兄に怒りもあり、溶接への関心が

ら工業高校に進学し喜ばしく思います。不良品をいかに無くすかを考えるのが品質管理に携わっている超音波探触子のメーカーである当社に就職し、現在に至ります。

平井 製造部の第1課で課長を務めている平井は大学の研究室に所属していた縁もあり、当社に入社しました。私が就職活動をした時はいわゆる「就職氷河期」と呼ばれる時期で私自身も苦戦しておりました。そういった状況で入社したため当社に対しては恩義を感じている部分が大い

課長に昇進したばかりです。入社前はものづくりが好きなお仕事もあり工業高校の機械科で勉強し、担任の先生から当社を紹介されました。この会社であればものづくりに対して色んなことに挑戦でき、自分を高められると思いい入社しました。

小林 品質管理部部长の小林正広です。学生時代は医療用超音波の研究を行っていました。別の会社に4年ほど務めた後に当社に入社しました。学生時代から超音波の研究に関わり、そこに携わる仕事に就きたいと考えておりました。当社で勤務できていることは大変



左から 関根さん、熊谷さん、平井さん



関口さん、刈谷さん

下には製品や自分自身に妥協せずに、こだわりを持って、ものづくりに取り組んで欲しいという思いで指導しています。そのことが自身のレベルアップやユーザーからの信頼に繋がります。

刈谷 技術部技術課長の刈谷晃洋です。私も岡社長や関口部長と同じ大学の研究室に所属しており、研究室の紹介で当社に入社いたしました。技術部ではユーザーへの対応や提案および設計や出荷試験などの業務に携わっております。また、技術部に配属される前は製造部で探触子やケーブルなど関連製品を製造して

皆ですが期待以上の結果を出してくれたいです。一方で具体的な指示を出して、詳細な説明をしないと上手く行かないとも感じます。熊谷 若い社員とコミュニケーションを取っていくためには私のような年長者側の立場である人間が仕事以外の若い世代の興味のある趣味など話題について関心を持つことが必要だと感じます。成長してくるとそのためのコロナ禍で他愛のない会話の機会が減ってしまったという現状はコロナ禍以前にはないやりにくさを感じますね。

関根 若い社員とコミュニケーションを取っていくためには私のような年長者側の立場である人間が仕事以外の若い世代の興味のある趣味など話題について関心を持つことが必要だと感じます。成長してくるとそのためのコロナ禍で他愛のない会話の機会が減ってしまったという現状はコロナ禍以前にはないやりにくさを感じますね。

(13面つづく)